

# フィールドワークゼミナール 平成 22 年度最終報告会資料

日時：2010年11月26日（金）13：00ー

場所：東大阪市シルバー人材センター



大阪商業大学  
豊山ゼミナール



## はじめに

本冊子は、大阪商業大学豊山ゼミナールのフィールドワークにもとづく社団法人東大阪市シルバー人材センターの運営の課題発見ならびに改善策提案の資料です。フィールドワークゼミナールは、平成20年度文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム」に選定された、大阪商業大学「実践教育による社会的問題解決能力の養成ーフィールドワークを活用したプロジェクト型演習の導入」の一環としておこなわれています。

平成22年度の豊山ゼミナールは総勢16名（男性13名、女性3名）で、運営の中心には4名ずつ4つから成るA、B、C、Dの4チームが位置しています。フィールド（活動の場）は、貴センターである東大阪市シルバー人材センターであり、4チームはそれぞれにセンター運営の課題の発見ならびに改善策の提案と取り組んでいます。もっともシルバー人材センターの職員ならびに関係者の方々にはセンターの活動に長年かつ経常的に従事してきたわけであり、そのような人たちに対して、私たちのような、活動にかかわってただか数ヵ月、しかも散発的にしかかかわらない者たちが課題を発見し、改善策を提案するなどということは僭越のそしりを免れえないでしょう。ただフィールドワークゼミナールの目的は、ゼミナール生に現実のフィールドを素材として、課題発見ならびに改善策提案の手法を、身をもって体験し修得させるところにあります。ですから本冊子で述べます提案も一ゼミナール生はそれなりに努力をしましたが一職員の方々からすれば見当違いも甚だしい事項がかなり存在すると思います。その折には遠慮なくご指摘いただいて、却下すべきものは却下し、修正可能なものについては修正していただければと思います。**とくに後者の修正については貴センターのご助言をいただきながら、ゼミナール生自らがおこない、それをもとに具体的な実行プランに落とし込んでいければと考えています。**

今回の課題発見、改善策の提案はさまざまな機会、調査にもとづいています。主なものを挙げるなら月2回の入会説明会や入会申込者講習会への参加、イベントのお手伝い、貴センターの各年度『通常総会議案書』情報の整理、社団法人全国シルバー人材センター事業協会出版『月刊シルバー人材センター』の検討、そして何よりも貴センターのご厚意により実施した、平成22年6月25日（金）の中間報告会、10月以降実施のアンケート調査、10月20日（水）の就業開拓員の方の本学での講演、11月1日（月）に実施した地域班ヒアリング、11月15日（月）実施の安全就業推進員の方からのヒアリングとなります。講演、ヒアリングにつきましてはお引き受けいただいた方の大切なお時間を割くことになりました。そのご厚意に十分に答えているかといわれれば心もとないですが、今回の平成22年度最終報告会で報告し、皆様方からのご批判、ご助言を受けて、さらに効果的な改善策につながるよう努力する所存です。何卒よろしく願い申し上げます。

平成22年11月26日（金）

大阪商業大学経済学部教授

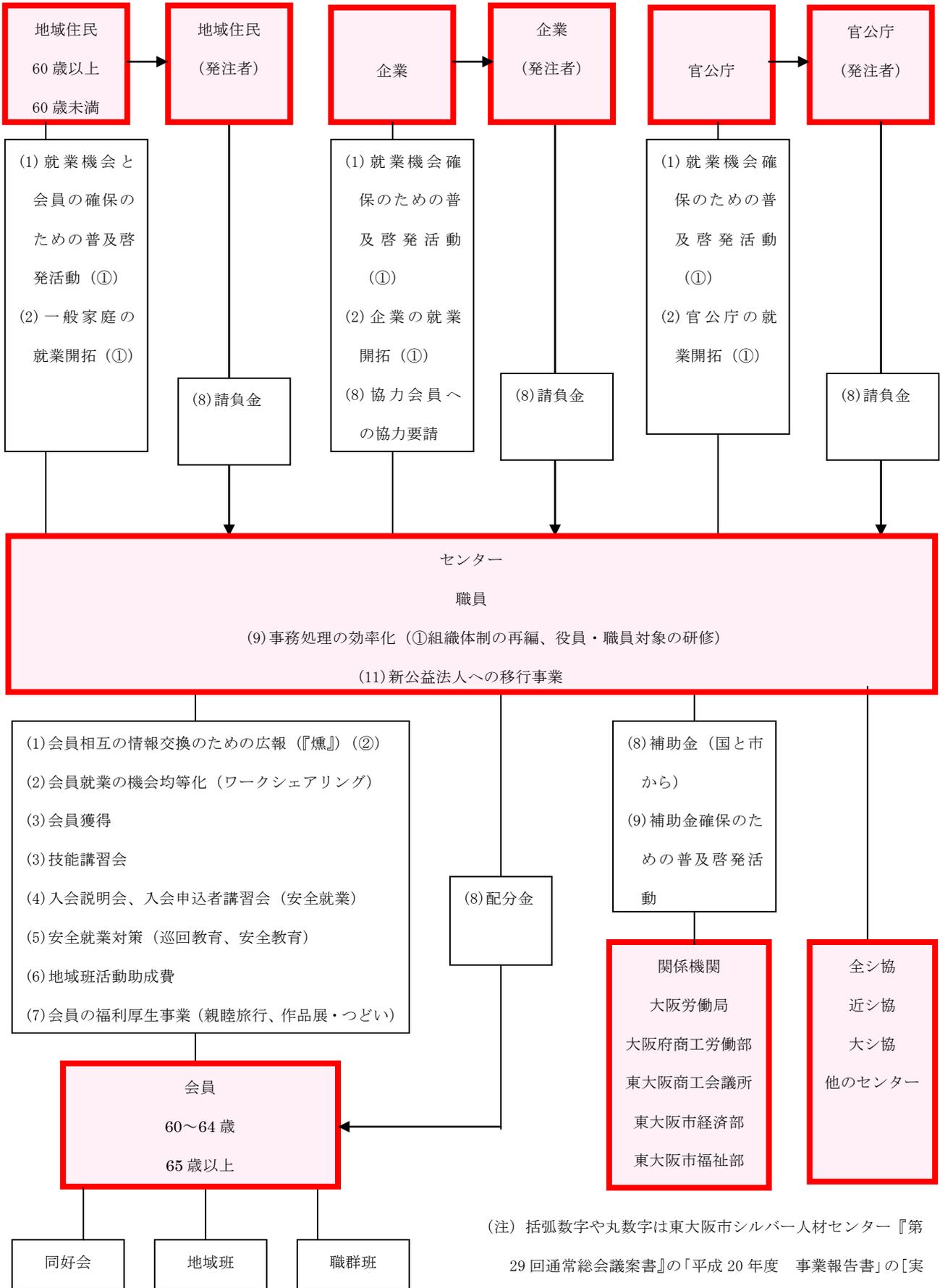
豊山 宗洋

## 東大阪市シルバー人材センターの活動の概観図

私たち豊山ゼミナールは、東大阪市シルバー人材センターの運営の課題の発見、改善策の提案に個別に取り組むに先立って、センターの活動の全体像を『第29回通常総会議案書』の「平成20年度事業報告書」をもとに把握することを試みた。それが次ページの概観図である。この図は東大阪市シルバー人材センターを中央にして概ね、上方の部分が就業活動の需要者（発注者）としての「地域住民」「企業」「官公庁」、下方の部分が就業活動の供給者としての「会員」ならびにセンターへの「協力機関」となっている。図では括弧付きの番号、丸文字の番号がバラバラに並んでいるが、それらは上記「平成20年度事業報告書」において付された項目番号に対応している。なお、この概観図については2010年6月25日（金）に当センターで、豊山ゼミナール平成22年度中間報告として報告している。

こうした全体的な概観図には3つの機能がある。第1に概観図によって、ゼミナールの各グループは、自らの取り組んでいる課題がシルバー人材センターの活動全体のどのあたりに位置するのかを知ることができる。いいかえれば全体図があることで、自分たちが「何のためにこのような課題と取り組んでいるのか」ということが見やすくなる（比喩的にいえば地図があることで自分の今いる位置を確認できる）。第2にそのことと関連するが、概観図によって他のグループの取り組んでいる課題の位置も知ることができ、自らが取り組んでいる課題との関係を視野におくことができる。これは各グループの共同作業の基盤となる。第3に、概観図を利用して、ゼミナール全体としての取り組みがどの部分に集中しており、どの部分が弱くなっているのかを判定することができ、今後ゼミナールとしてどの部分に注力すればよいかを示す指針となる。もっともこの概観図はあくまで「平成20年度事業報告書」に依拠したものであるので、今後の展開を考えるにあたっては環境や運営状況の変化に合わせて、最新の報告書をもとにそのつどリニューアルする必要がある。

東大阪市シルバー人材センターの活動の概観図



(注) 括弧数字や丸数字は東大阪市シルバー人材センター『第29回通常総会議案書』の「平成20年度 事業報告書」の[実施状況]内の番号に対応している。

## 交通安全講習への提案

豊山ゼミナール A チーム

木澤卓司・今田大樹・唐門俊明・杉田秀一朗

### 1 提案の目的

私たちは途上事故を減らすために会員の事故に対する意識付けができるように努めたいと考えている。

### 2 なぜそう考えたか

まず平成 22 年度 10 月末の大阪府内の交通事故件数を見れば以下のとおりである（大阪府警察 HP：<http://www.police.pref.osaka.jp/03kotsu/kensu/tokucho.html>）。

	平成 22 年	平成 21 年	前年対比（増減率）
件数	41,920	42,384	-464（-1.1）
死者数	157	164	-7（-4.3）
死傷者数 （重傷者）	50,314 (2,919)	50,625 (2,993)	-311（- -74（-2

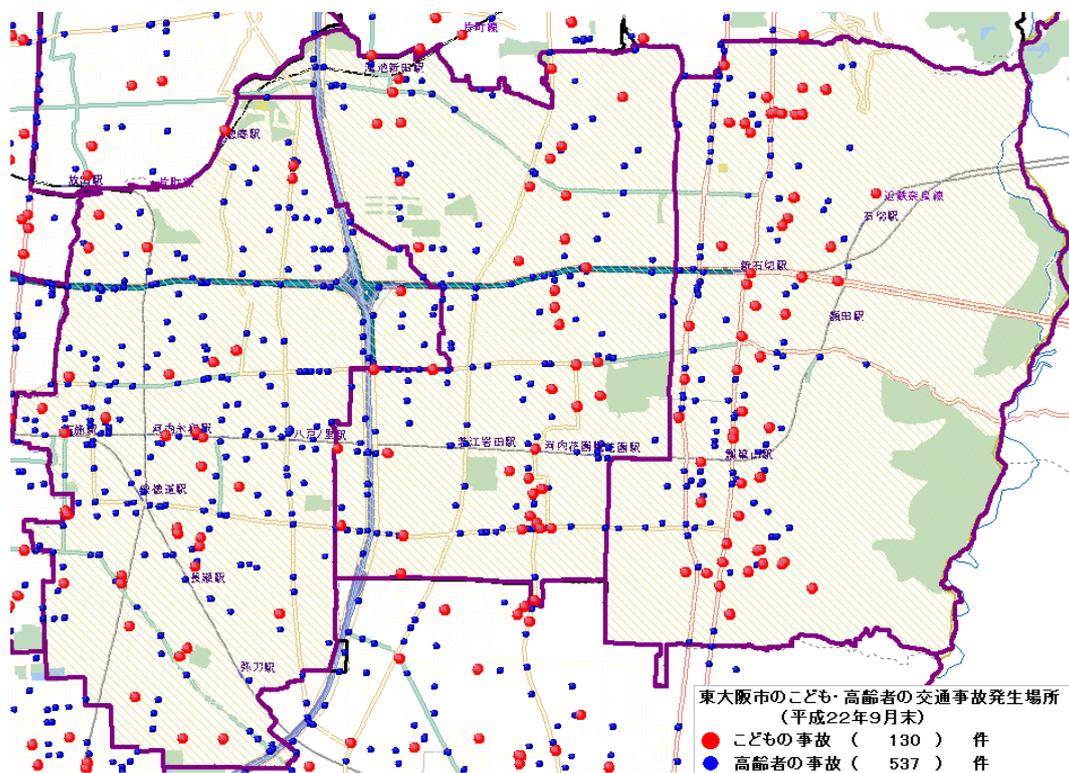
件数、負傷者数及び死者数はともに減少し、死者数は 157 人で、前年と比較して 7 人（-4.3%）減少した。

このうち死者数に関して、年齢層別に見たのが次ページの表である。

	平成22年（構成比率）	平成21年（構成比率）	前年対比（増減率）
15歳以下	5（3.2）	3（1.8）	+2（+66.7）
16～24歳	15（9.6）	23（14.0）	-8（-34.8）
25～34歳	18（11.5）	14（8.5）	+4（+28.6）
35～44歳	13（8.3）	16（9.8）	-3（-18.8）
45～54歳	20（12.7）	14（8.5）	+6（+42.9）
55～64歳	19（12.1）	27（16.5）	-8（-29.6）
65歳以上	67（42.7）	67（40.9）	±0（0.0）
合計	157（100.0）	164（100.0）	-7（-4.3）

年齢別では65歳以上が67人（42.7%）で前年と比較して同数だったが、依然として65歳以上の高齢者の死者数が突出している。

それではこのような高齢者の死者数、さらには高齢者の交通事故件数は、東大阪市において何らかの傾向があるのかを見たのが下のマップである（大阪府警察 HP：[http://www.police.pref.osaka.jp/03kotsu/map/thisyear/03\\_08higashiosaka\\_2\\_1.html](http://www.police.pref.osaka.jp/03kotsu/map/thisyear/03_08higashiosaka_2_1.html)）。



判別しにくい小さい丸で示された高齢者の事故を見ると、東大阪市全域にわたっており、特定の傾向を見いだすことはできない。

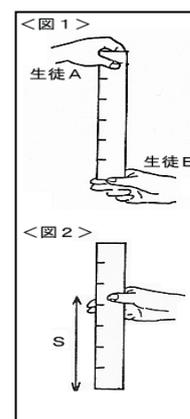
当初は、事故を減らすために東大阪市の事故発生場所データを調べてどこが事故を起こしやすいかを会員に伝えることで注意を促そうと考えていたが、事故は様々な場所で起きているので特定することはできなかった。これは2010年11月15日（月）に安全就業推進員の東川文彦氏からおこなったヒアリングで得た情報を裏づけるものである。

### 3 交通安全講習会への提案

特定の場所で事故が頻発し、そこに注意を促すことで高齢者の交通事故を減らそうと考えたが、現在までの簡単な調査では、そうした傾向は見いだせなかった。そうするとやはり会員それぞれの交通事故への意識を高めるしかない。そこで交通安全講習で、どのようにして出席者の講習への関心を高めるか考え、次の提案に行き着いた。それは「講習の最初の段階で、簡単な体力チェックをおこない、会員になる方に自分の体力の衰えを自覚してもらう」というものである。そのチェック方法としては以下のものが考えられる。

#### ①棒おとし（反射神経）テスト

歩行中または自転車に乗っているときのとっさの判断や危険回避など、身体の反射速度が遅いと交通事故につながることもある。これはそういった事故を防ぐための反射神経のテストである。このテストは2人でおこなう。用意するものは30センチくらいの棒かものさしである。1人が棒を落としてそれをテストを受ける人がつかむ。集中力がなければうまく棒をつかむことができない。



#### ②平衡感覚テスト

このテストで準備するものはストップウォッチだけです。やりかたは両手を腰に当ててどちらの足が立ちやすいかを確認するため、片足立ちを左右について行います。そして、片足立ちの継続時間を計測します。これを続けるとだんだん慣れて秒数が伸びていきバランス力がつく。よって、事故の減少につながる。

目安

20秒以上	まだまだ若い
10秒以上	まずまず
10秒未満	衰えている

### ③歩行テスト

ストップウォッチで5メートル歩く時間を計り、この時間が自身の年齢ごとに以下の範囲に入れば、同年代の大部分の人々と同程度の体力があると大まかな判断ができる。

年齢	男性	女性
65～69	1.4～3.3秒	1.7～3.9秒
70～74	1.7～3.8秒	2.1～4.6秒
75～79	2.0～4.3秒	2.5～5.3秒
80～84	2.3～4.7秒	2.9～6.1秒
85～89	2.5～5.2秒	3.3～6.8秒

ただこのテストは、比較的広いスペースを必要とするので、交通安全講習の前におこなうのは不向きであるかもしれない。

## 4 今後の方向性

- ①上記以外の簡易な体力チェックの項目を考える以外に、交通安全講習で出席者の集中度をどのように高めるか考えていく。
- ②将来的には、途上事故だけでなく就業中の事故も視野におさめたい。

## 東大阪市シルバー人材センターの会報『燻』を通じた広報活動

豊山ゼミ B チーム

松井大樹・相部大樹・尾平裕樹・余田将裕

### 1 目的

B チームは、広報『燻』を通じた、会員への情報提供ならびに会員相互間の交流の促進を図る。

### 2 『燻』の位置づけ

本冊子の初めのところに記した「東大阪市シルバー人材センターの活動の概観図」を見れば、広報の対象として、発注者としての地域住民向け、企業向け、官公庁向け、会員候補生としての地域住民向け、現在の会員向け、協力相手としての関係機関向けのあることがわかる。それぞれについてそれぞれの工夫が必要であろうが、この報告では現在の会員向けに広報の焦点を絞る。さらに広報手段としては市政日より、ホームページなどがあるが、今回は広報誌『燻』に注目する。

### 3 『燻』に仕事のレポートを載せる提案

私たちは『燻』に、仕事内容ならびに従事者のレポートを載せることを提案する。理由は、次の3つである。

①今年の6月22日の入会説明会のときから「よくある質問」の説明が加わった。そのなかに「仕事の内容について詳しく教えてほしい」というものがあり、センター職員の方が仕事内容に関する会員候補者のニーズがあることを自覚している。

②私たちの行ったアンケート調査にも仕事の内容が知りたいという意見があった（下記参照）。

5 ほかに何かお気づきになったことがあれば自由にお書きください。

かんたんでいいのですか。仕事の内容がどこまで知りたい。  
例えば、整理など、どういうものを整理するのかとか。

5 ほかに何かお気づきになったことがあれば自由にお書きください。

最近の仕事内容等の説明

5 ほかに何かお気づきになったことがあれば自由にお書きください。

職種の内容 説明 少なからず

4 内容に関してわかりにくいところがありましたか？ あったとすればどこがわかりにくかったですか？（複数回答可）

1. わかりにくいところはなかった
2. センター、会員、発注者の関係について
3. 配分金について
4. 団体損害保険、損害保険について
5. 入会手続きについて
6. その他（職種内容、募集、除算他）

③11月1日に地域班の班長、副班長さんからヒアリングを行ったが、そのときの話によると、地域班の間でも交流のない人は多数いて中には顔を知らないという人もいます。そういう人たちは、情報源が『燻』だけになる。

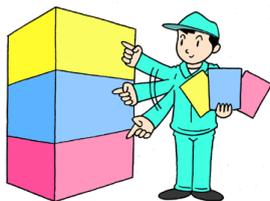
#### 4 提案の具体的なイメージ

3で挙げた理由から『燻』に、仕事をしていた、または現在している人から仕事内容について簡単なレポートを書いてもらい、それを載せる。

過去に『燻』が年に2回発行されていたときは仕事の報告書があり、それは原稿用紙3~4枚ぐらいの量があった。そうすると執筆する人もごく一部だけになる。そこで今回は長くせず100~150字程度の分量にし、1人でも多くの方に書いてもらうことを狙いとする。具体的なイメージは次のようである。

## 屋内外軽作業

### スーパーの自転車、カゴ・カート整理



9～11月の間、〇〇のスーパーで自転車やカゴの整理をしました。自分も含め2人がその仕事に就き、日替わりで働きました。

最初は戸惑いも多く忙しく感じたが、次第に慣れていき顔見知りも増え楽しくできるようになった。気軽に挨拶するなど仲の良い人が増えたのは、うれしかったです。

〇〇班

東大阪 太郎

※例文です(125字)

## 技術・技能分野



## 事務・管理分野



## サービス分野



## 東大阪市シルバー人材センター 時系列データ

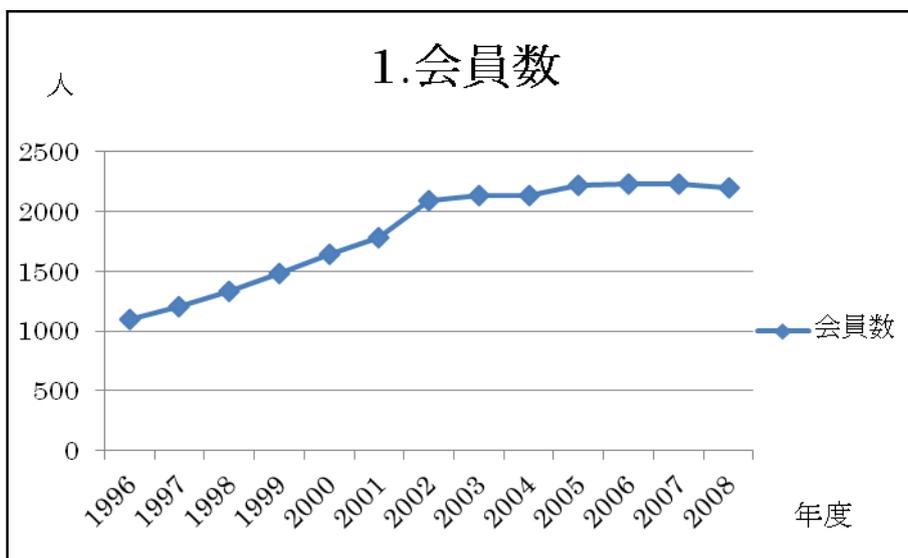
豊山ゼミナールCチーム

浮舟隆寿・溝端大地・村田十馬・森本 亮

### 1 データ整理の目的

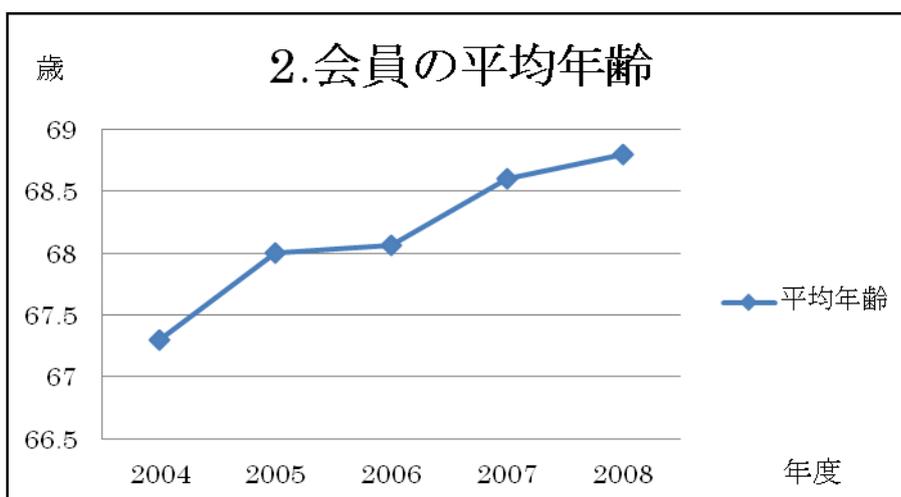
東大阪市シルバー人材センターの時系列での動きを皆が使えるデータとして整理し、今後Cチームの課題である「会員獲得」と「就業開拓の拡充」についての改善策を見つけ出すため。

### 2 データならびにコメント

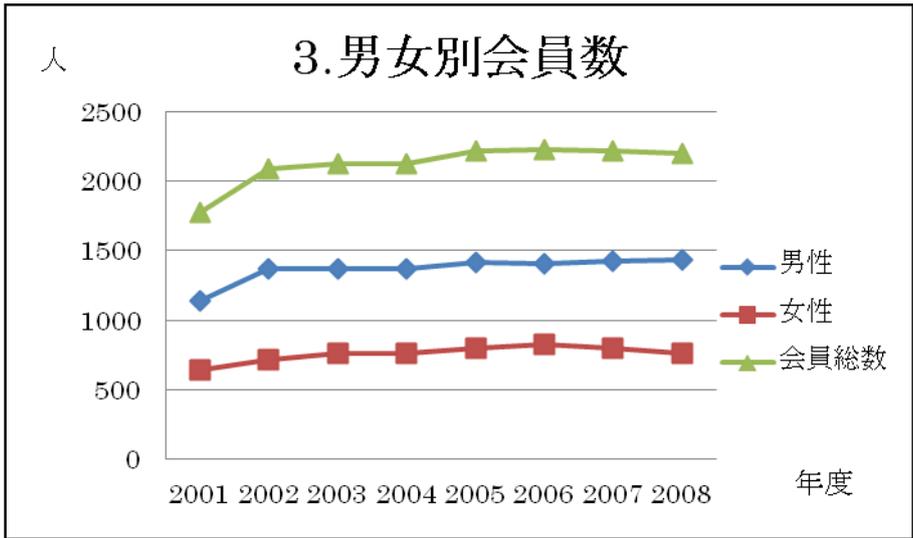


会員数は順調に増加し、2002年度で2000人を突破している。

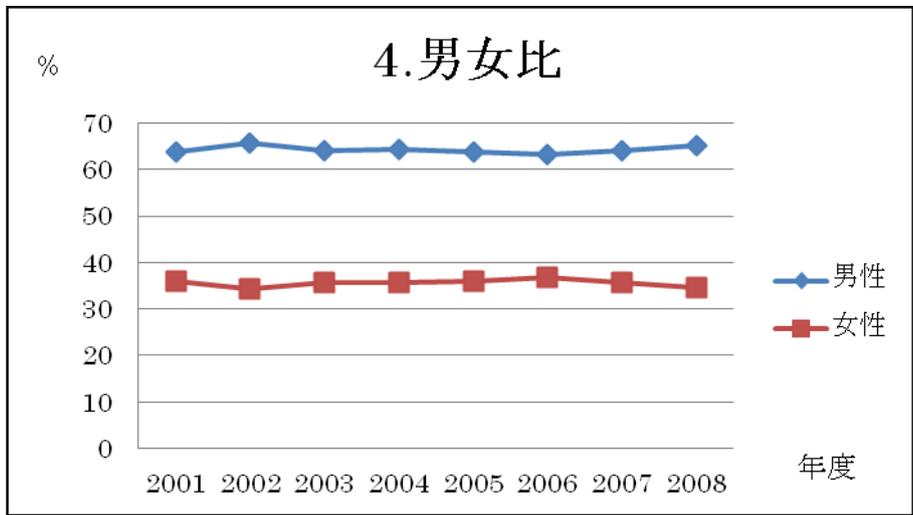
それ以降停滞している。



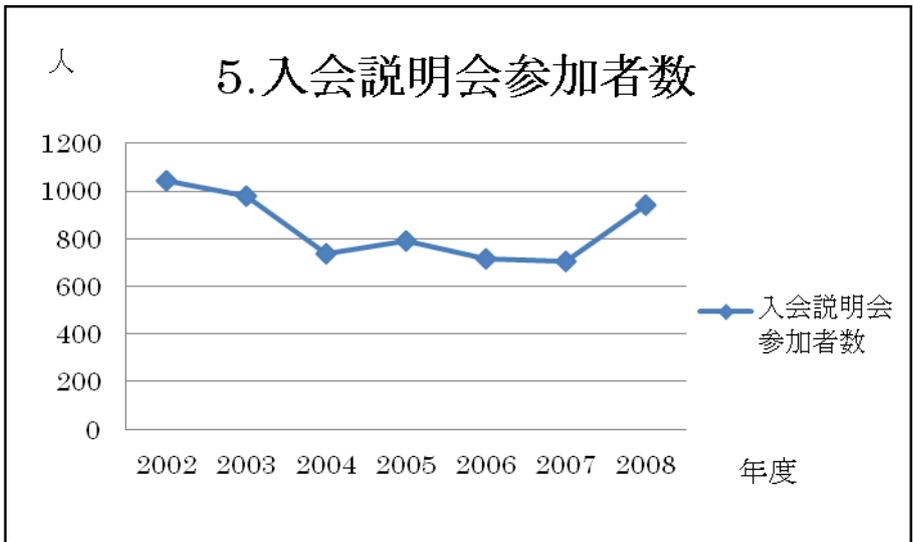
グラフを見てわかるように、かなり平均年齢が上がっている。このことは、企業がより若い高齢者を求めているとすれば、大きな問題となる。就業者の平均年齢がわからないので、それと比較することは今後の課題であるが、もし就業者の平均年齢低いとすれば、より年配の高齢者が仕事もないのにもかかわらずセンター会員としてとどまり続けていることになる。



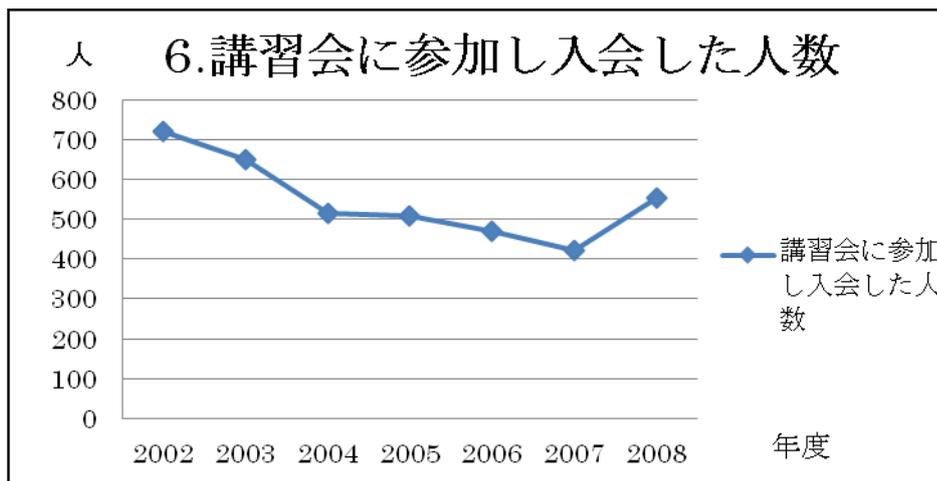
2001年度から2002年度にかけて、男性会員が増加しているが女性会員はあまり変わらない。会員総数が増えているにもかかわらず、女性会員の伸びが少ないのには、何か理由があるのではないだろうか。



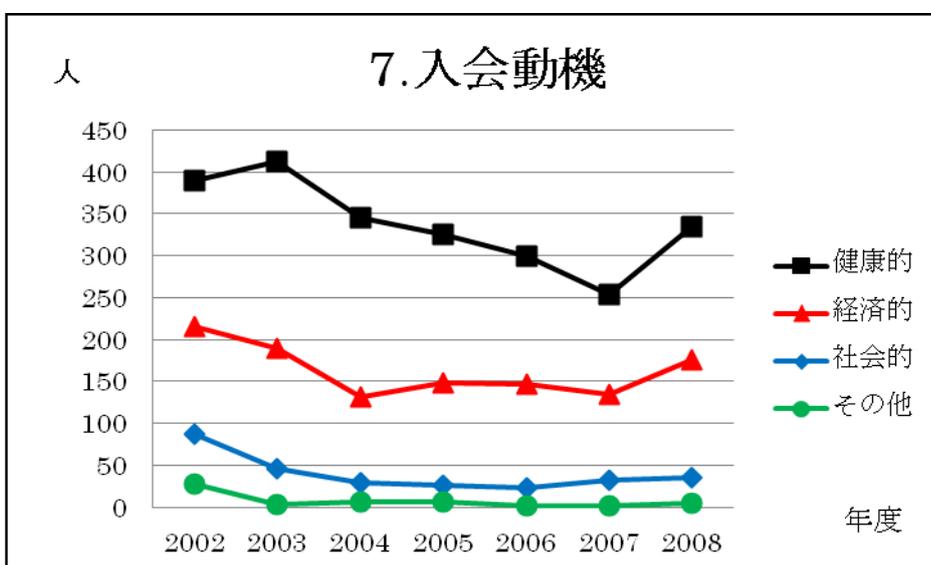
男性会員数が増加している2001年度、2002年度でも、比率にしてみるとあまり差がないのを見てとれる。そのほかよく指摘されることではあるが、女性比率をどのように上げるかが今後の課題となる。



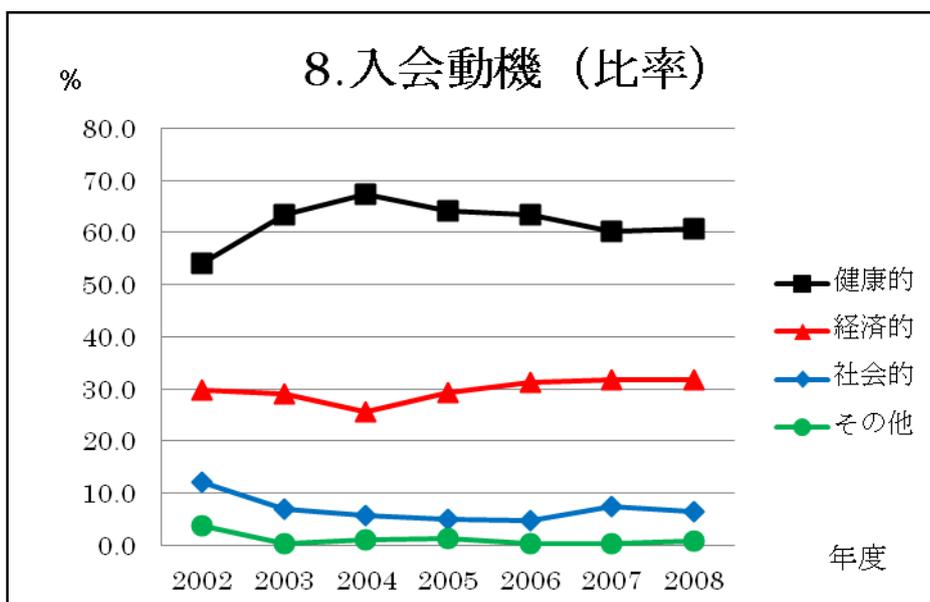
2008年度は、参加者が増加している。リーマンショックの影響かもしれないが、そうであれば経済的動機で入会している人が増えているはずである。実際はどうだろうか(データ7、8)?



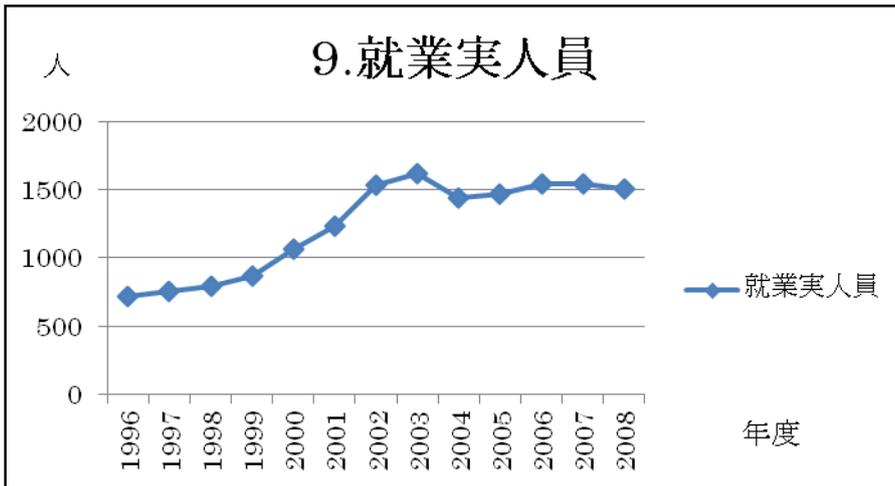
説明会参加者の半分以上が入会している(データ5)。これからすれば会員を獲得するには入会説明会への参加者を増やせばいいことがわかる。



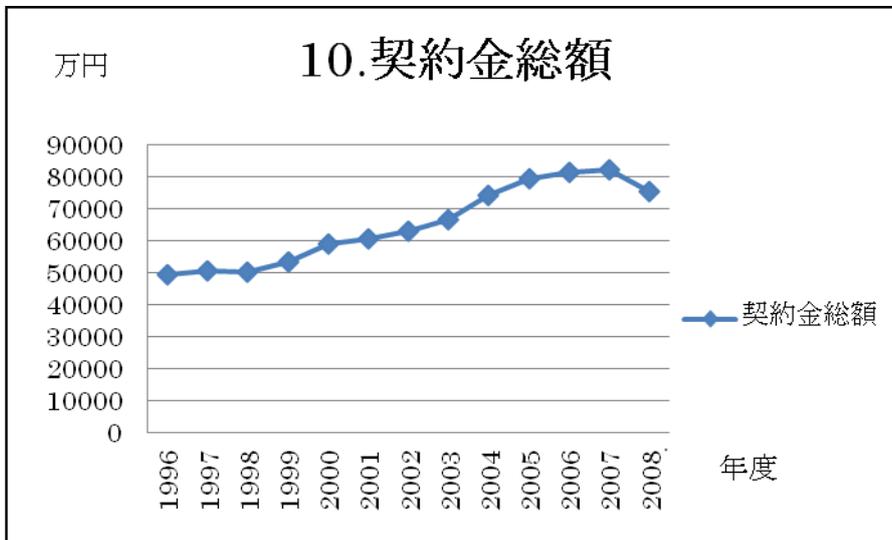
入会動機の大半を健康的という理由が占めている。



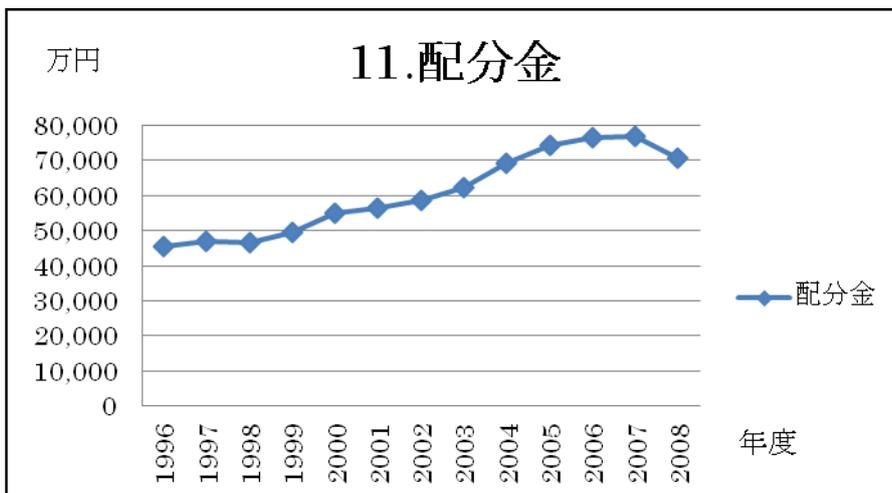
入会動機を比率で見ると、リーマンショックの影響で経済的動機の数値が上がるかと思われたが、大きな変化は見られない(データ5)。健康的動機として会員がどのようなことをイメージし、それが会員獲得にどのような生かせるか今後分析する必要がある。



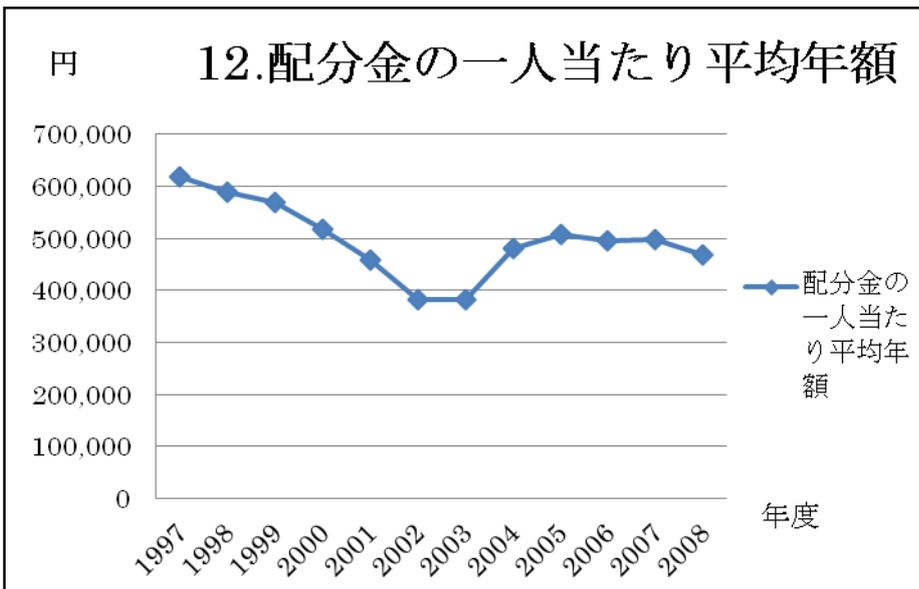
会員数は2000人を超えているが、実際に就業している人数は1500人前後である。



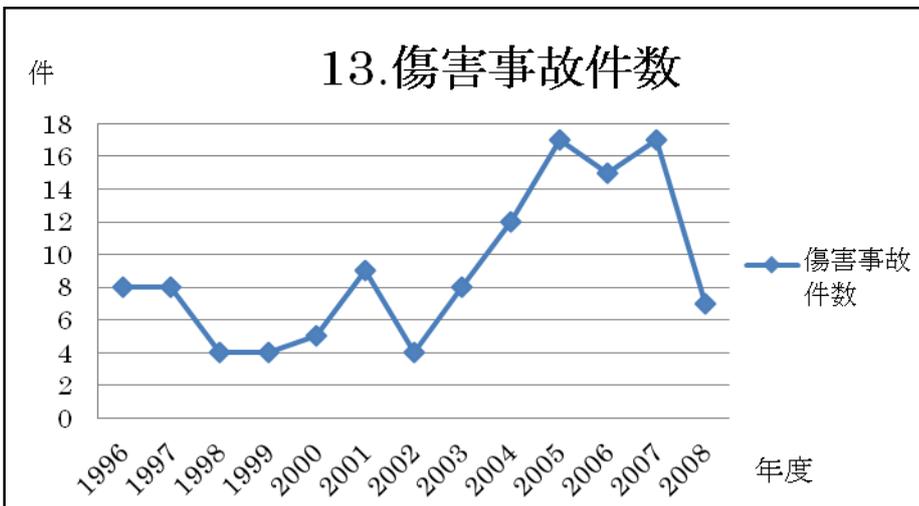
年々増加していたが、2008年度で減少している。リーマンショックの影響か。



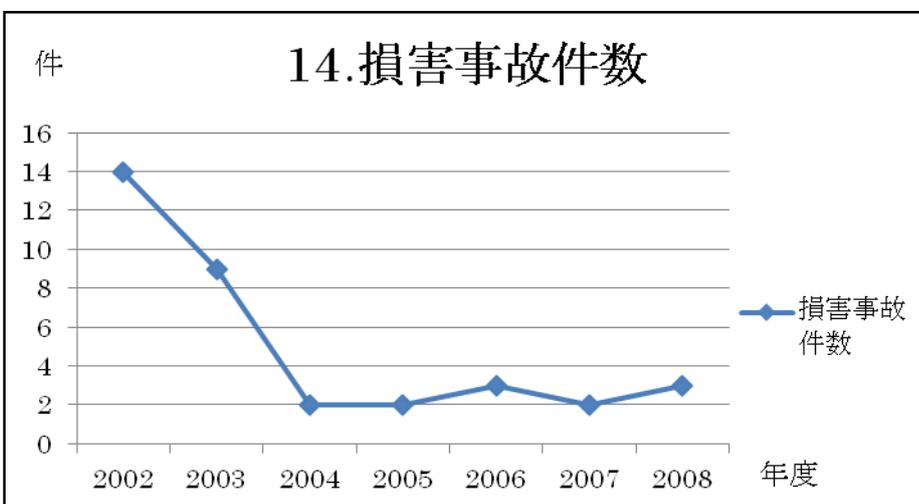
契約金総額と同じ動きである。



2002年の会員数増加によって、一人当たりの配分金は減っている。



会員数の増加と平均年齢が上がったことにより、事故件数も増加している。



2002年度以降の傷害事故件数の増加とは逆に、損害事故件数は減少した。

### 3 まとめと今後の方向性

今回の時系列データをまとめる作業は今後の活動に役立つものとなった。実際にグラフ、数値で表しデータとして残すことの重要性を再確認することができた。

以下、Cチームが今後のチームの課題として考えていることに限ってまとめておく(データ2、3、4、7、8)。

- ①会員の平均年齢が68歳にまで上がっている(データ2)。このことから、若い会員の獲得が課題となることが考えられる。
- ②女性会員が少ない(データ3、4)ことから、女性会員の獲得が課題となる。
- ③健康的動機での入会が依然として多い(データ7、8)。このことから、会員の動機を反映した入会戦略を練る必要がある。

Cチームは、この3つについて今後さらに考察を進めていくつもりである。

## 東大阪市シルバー人材センター入会説明会について

豊山ゼミDチーム

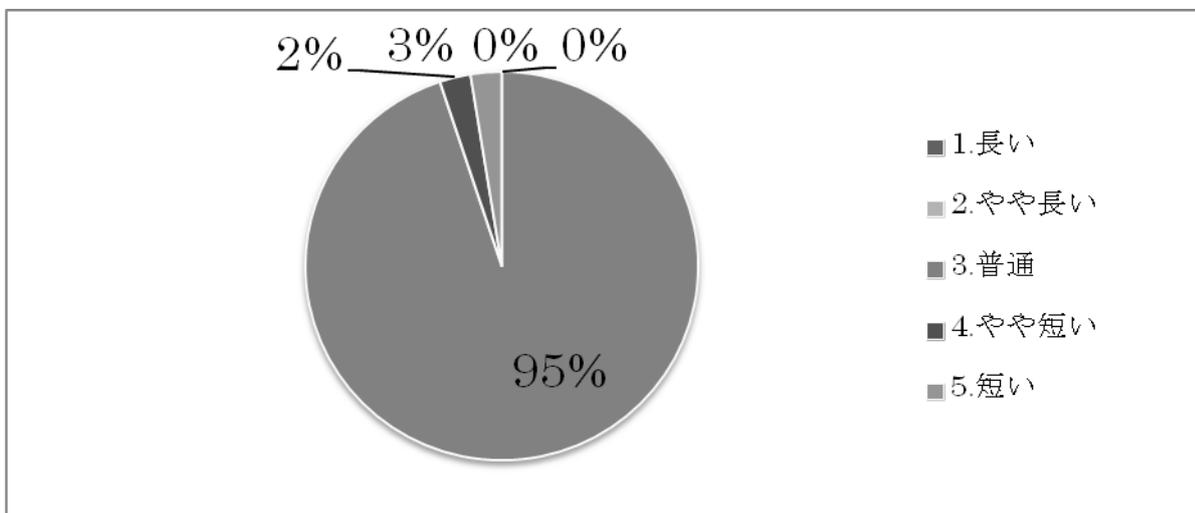
宮田美紀・市村涼子・古森惇史・洲本紗弥香

### 1 目的

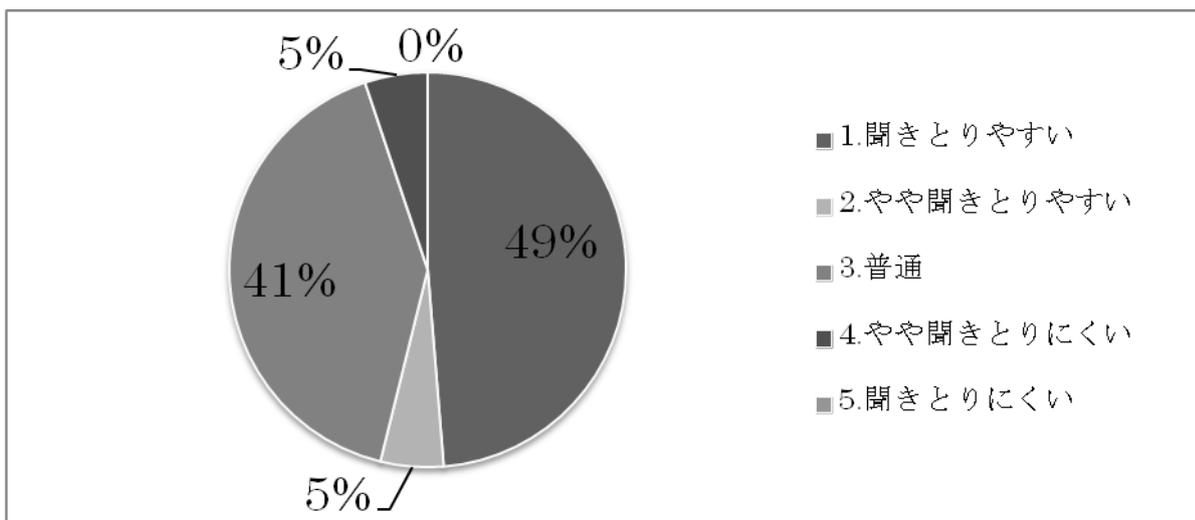
入会説明会をよりわかりやすいものにするこで、入会者数を増やしていきたい。  
そのためアンケートをとり、参加者の方がどう思っているのかを調べてみた。

### 2 データ（アンケート結果）

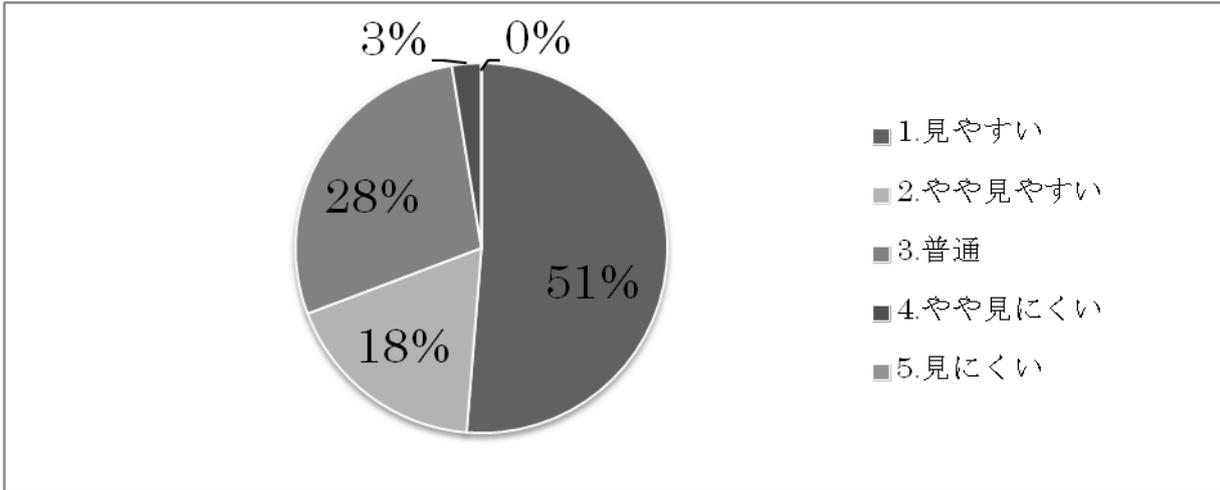
①入会説明会の長さはどうですか？



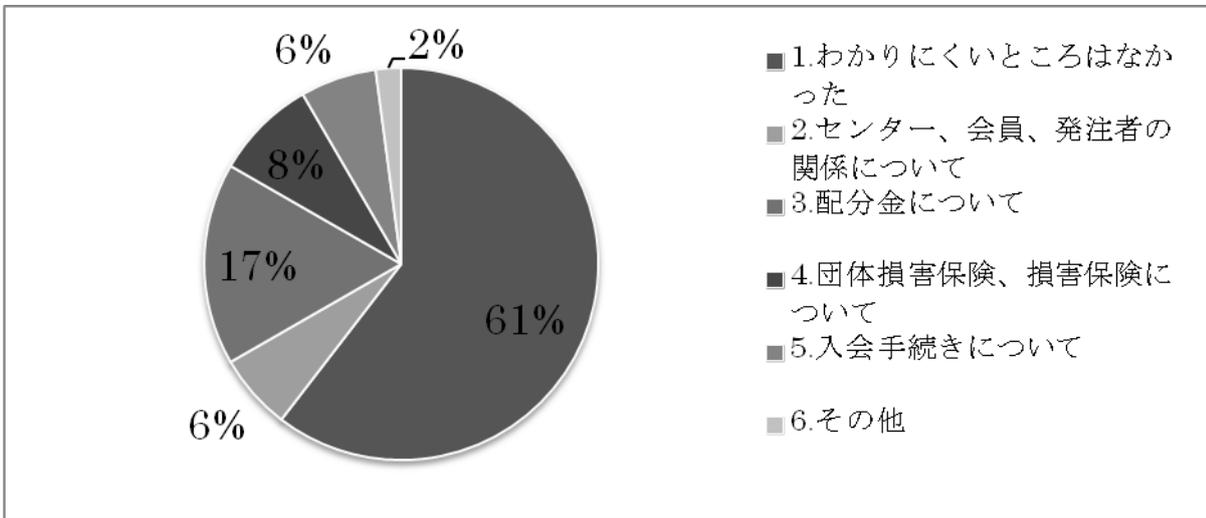
②声は聞きとりやすかったですか？



③スライドは見やすかったですか？



④内容に関してわかりにくいところがありましたか？



⑤ほかに何かお気づきになったことがあれば自由にお書きください。

10月26日(火)

- ・ホームページの入会説明会の日程が古い
- ・職種の内容説明が少なかった
- ・最近の仕事内容などの説明
- ・かんたんでいいのですが、仕事の内容なども知りたい。  
例えば、整理など、どういうものを整理するのかとか

11月9日(火)

- ・企業向け求人PRの方法について説明がほしい
- ・求人%はわかるが、現在の求人数などがわかれば教えてほしい
- ・入会申し込みの日の曜日を多くしてほしい

### 3 提案

- ①アンケートの自由記入欄を見ると、求人パーセントでなく、具体的な人数を知りたいという意見があげられている。それゆえ実数のデータを提示する。
- ②仕事の内容について説明がほしいという意見もある。だが説明会の際に配付されている資料に仕事について書かれているものがある。にもかかわらず、このような意見がでることは、資料があることの周知が十分ではないように思われる。それゆえ資料の存在に関する周知を強める必要がある。
- ③アンケートのわかりにくかったところはあったか、という質問の回答で配分金についてがわかりにくいと答えた方が少し多くなっている。これに関してはまだ詳細に調べていないので、今後調べ、わかりやすい言葉での説明を考えていきたいと思う。